



リニューアルした日田駅前広場を
活用した「民間主催のイベント」

リニューアルした日田駅前広場を活用した、民間主催のイベントが開催されています。賑わいを生み出し「エリアの価値」を高める公共空間を活用した新しい取り組みです。



▲ロックアイスフェス



▲ラグビーワールドカップ2019パブリックビューイング



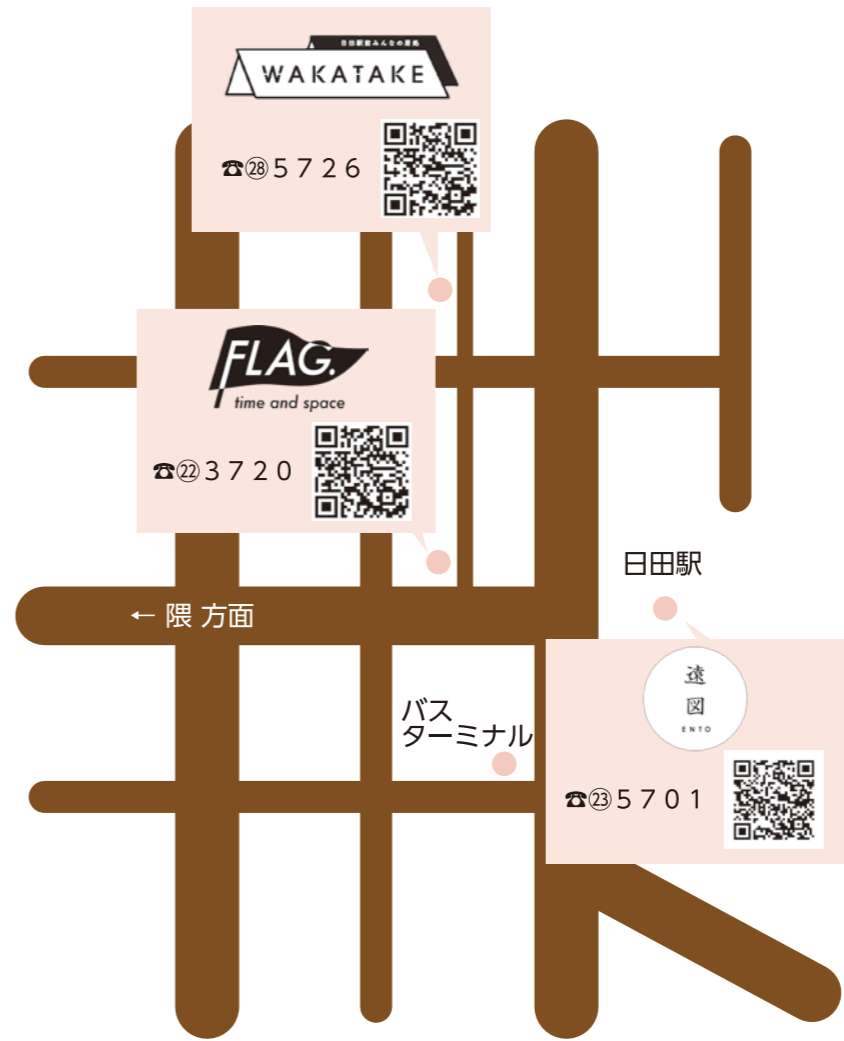
▲ハロウィンイベント

いろんな活用で
日田を盛り上げ
ませんか？

「ひたReデザイン プログラム」の取り組み

日田の日々の暮らしを

ひた **Re**デザイン **P** ログラム
～暮らしを更に進化させる人材養成 パンカブルとニッチテール～



日田駅

← 限 方面

バス
ターミナル

☎235701

「ひたReデザインプログラム」の 題材となった3つの物件

- 1.Share & Rental Space WAKATAKE
- 2.しごとcafe FLAG
- 3.STAY+CAFE ENT O



この視点から、空き家や空き店舗、空き地、有効に利用されていない空間、地域資源を活用して魅力的な場所に生まれ変わらせ、人が集う場をつくること。これからの縮小社会には必要となってきました。

- 総合的・統合的に考える など
- ① 民間と行政が連携して地域を運営する
 - ② 今あるものを新しい使い方で活用する
 - ③ 課題や取り組みを個別・単体で考えず、

ひたReデザインプログラムとは
市ではこれからのまちづくりには、**誰もがまちづくりや地域づくりに携わり、自分が行動すればまちは変わるという意識を持つことが重要**と考え、平成29年度から次の視点をもち、取り組むことにしました。

す。そして、日田の暮らしをリデザインする人材を養成し、民間主導による事業展開を図るため、全国で魅力的なまちづくりを実践している人を講師に迎え、3つの遊休不動産等をもとに、民間主導の事業プランを考えました。
その結果、現在では**旧若竹旅館**は交流拠点として個室貸事務所やイベントスペースの貸し出しが行われ、**かつて酒屋だった店舗**は、日田で働きたい人を応援する場所、学生の勉強場所やイベントスペース、仕事の打ち合わせなど様々な形で活用されています。

まちの現状と課題

日田市では高校卒業後の進学・就職などで若者の転出が多く、若者世代を中心とした生産年齢人口の割合が小さくなっています。経済が縮小し、人口規模、経済規模が小さいまちや、教育・雇用の基盤が十分に維持できないまちでは、**住んでいるまちの価値（エリアの価値）**の低下から、さらなる人口減少を招くことが懸念されます。

人口減少を自分たちの地域で起こっている身近な問題として認識し、**民間と行政が、お互いに得意とする強みを生かし、社会環境の変化に応じた地域づくりが必要**となっています。

なぜエリアの価値の向上が必要？

人は、「働く場所」や「学ぶ場所」、「賑わい」「利便性」「景色」などを価値として評価し、まちを住みやすく改善したりすることで、新たに住む場所を選びます。経済の縮小や少子高齢化をはじめとする縮小社会を迎えるなか、「**暮らす場所として選ばれる場所**」になるために、エリアの価値を高める必要があります。

敷地とエリアの価値とは

エリアの価値は、高級な住宅やマンションといった一つの建物だけで生まれるものではありません。「自然に囲まれた住環境」や暮らしにおける「コミュニケーション」や暮らしにおける「コミュニケーション」

「この場所で暮らしたい」「この場所で働きたい」といった人の

思いがニーズとなって土地や建物の価値が生まれてきます。単に新しい建物や機能を配置するだけでなく、近隣の状況を踏まえ、民間施設と公共空間とが分け隔てなくつながるような仕掛けをデザインすることで、エリアの魅力がより高まり、結果として建物や敷地の価値も向上していきます。

課題解決に向けて何が必要？

子供たちの声やそこで働く人、暮らす

人の姿、空き家や空き地等の周辺環境など、まちの様子を肌で感じながら人の意識やまちの変化に応じた「まちづくり」が必要となってきました。「より質の高いサービスを提供し、都会にはない「ひたらしいライフスタイルをどのように生み出すか」という視点をもち、一つの取組みから複数の地域課題を同時に解決することや、地域の埋もれた資源を見いだしながら、暮らし続けたいと感じるまちの姿に向かって、**民間と行政の連携による「まちの魅力の向上と利益の追求」**が求められています。